

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	こころとからだのしくみ		学科名	介護福祉学科	講師名	平野 雅子	
時間数	60時間				実務経験の有無	看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり	
学年・学期配当			1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい			体の基本的な仕組みを学び理解する。心の部分では介護を行う上で大切な尊厳ある支援、又介助をしていく時高齢者に負担をかけないようにする為にはどのように行えば良いかを理解をする。				
授業全体の内容の概要			介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する学習とする。				
授業修了時の達成課題（到達目標）			生活支援の根拠となる人体の構造や機能について理解ができる。介護支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を身に付ける。				
指導計画	回	形態	内 容				
	1	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	2	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	3	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	4	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	5	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	6	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	7	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	8	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	9	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	10	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	11	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	12	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	13	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	14	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
	15	講義	からだのしくみを理解する（移動・身じたく・食事・清潔・排泄・睡眠・終末期）				
			原則、筆記試験の実施 <u>筆記試験</u> 有 ・ 無				
			しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験				
テキスト・参考図書等			中央法規 最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ				
評価方法			講義内で小テスト及び講義終了後に筆記テストを実施する。振り返りとして筆記試験評価を80%とし、授業態度・出席率などを20%で評価する				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	こころとからだのしくみ		学科名	介護福祉学科	講師名	平野 雅子	
時間数	60時間				実務経験の有無	看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり	
学年・学期配当			1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい			体の基本的な仕組みを学び理解する。心の部分では介護を行う上で大切な尊厳ある支援、又介助をしていく時高齢者に負担をかけないようにする為にはどのように行えば良いかを理解をする。				
授業全体の内容の概要			介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する学習とする。				
授業修了時の達成課題（到達目標）			生活支援の根拠となる人体の構造や機能について理解ができる。介護支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を身に付ける。				
指導計画	回	形態	内 容				
	16	講義	前期の復習				
	17	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	18	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	19	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	20	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	21	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	22	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	23	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	24	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	25	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	26	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	27	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	28	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	29	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
	30	講義	こころのしくみを理解する（総まとめ・国試対策）				
			原則、筆記試験の実施 ☒ 有 ・ 無				
				しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポ			
テキスト・参考図書等			中央法規 最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ				
評価方法			講義内で小テスト及び講義終了後に筆記テストを実施する。振り返りとして筆記試験評価を80%とし、授業態度・出席率などを20%で評価する				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	コミュニケーション		学科名	介護福祉学科	講師名	林 浩文
時間数	30時間				実務経験の有無	社会福祉施設・事業所で支援業務 介護福祉士並びに社会福祉士養成施設の 専任教員業務
学年・学期配当			1 年次	○ 2 年次	前期	○ 後期 通期
目的・ねらい			7割以上の利用者に何らかのコミュニケーション障害があると言われている。信頼関係を築いていくためにも、対象者の特性に応じたコミュニケーション、家族とのコミュニケーション、職場でのコミュニケーションを教科書を中心に学習する。1年次の学習の振り返りも適時盛り込む。 国家試験受験対策授業としても位置づける。			
授業全体の 内容の概要			教科書に記載しているテーマについて授業をおこなう。 国家試験を意識した授業展開をおこなう。			
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			・特性に応じたコミュニケーションのあり方がわかる。 ・コミュニケーション障害とは何かが理解できる。 ・家族や職員とのコミュニケーションに必要な知識を知ることができる。 ・国家試験対策としても理解することができる。			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	オリエンテーション			
	2	講義	国家試験の過去問を解いてみよう！ ～今から学習する内容を知ることを目的に			
	3	講義	第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション そもそもコミュニケーション障害とは①			
	4	講義/演習	第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション そもそもコミュニケーション障害とは②			
	5	講義/演習	第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション 特性を学ぶ 視覚・聴覚・構音に障害のある人			
	6	講義/演習	第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション 特性を学ぶ 失語症・認知症・精神的に障害のある人			
	7	講義/演習	第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション 特性を学ぶ 知的・発達・高次機能に障害のある人			
	8	講義/演習	第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション 特性を学ぶ 振り返り			
	9	講義/演習	第4章 家族とのコミュニケーション①			
	10	講義/演習	第4章 家族とのコミュニケーション②			
	11	講義/演習	第5章 チームコミュニケーション①			
	12	講義/演習	第5章 チームコミュニケーション②			
	13	講義/演習	第5章 チームコミュニケーション③			
	14	講義	1年次も含めた総まとめ（国家試験対策含む）			
	15	講義	1年次も含めた総まとめ（国家試験対策含む）			
			原則、筆記試験の実施 ○有 ・ 無			
				しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなど		
テキスト・参考図書等			中央法規 最新介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 資料配布（国家試験過去問題、国試ナビからの抜粋など）			
評価方法			全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より 筆記試験70%、出席状況10%、授業中の態度20%で評価する。筆記試験の評価が悪い学生は再試験を実施する。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	レクリエーション 活動援助法Ⅱ		学科名	介護福祉学科	講師名	平野 雅子
時間数	60時間				実務経験の有無	看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり
学年・学期配当			1 年次 2 年次		前期	後期 通期
目的・ねらい			利用者それぞれの「心を元気にすること」を目的としたレクリエーションを企画・立案及び実施できる能力を養い、実践することができる。			
授業全体の 内容の概要			コミュニケーションワークやグループワークを取り入れて学習する。レクリエーション種目や活動などの体験をしながら、実践力を学ぶ。			
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			目的、ねらいに沿ってレクリエーションの楽しさを体験し、支援者としてのレクリエーション技術を 実践で表現できる。 レクリエーションの意義とその必要性について、理解し、実践できる。			
指導計画	回	形態	内容			
	1	講義・演習	新入生と在校生の交流を想定した企画と実践			
	2	講義・演習	新入生と在校生の交流を想定した企画と実践			
	3	講義・演習	レクリエーションの実践・体験 季節の作品・壁面構成			
	4	講義・演習	レクリエーションの実践・体験 季節の作品・壁面構成			
	5	講義・演習	レクリエーションの実践・体験 季節の作品・壁面構成			
	6	講義・演習	レクリエーションの実践・体験 季節の作品・壁面構成 分析と考察			
	7	講義・演習	レクリエーションの実践・体験 季節の作品・壁面構成 分析と考察			
	8	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 高齢者の好きな歌（童謡・流行歌）			
	9	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 高齢者の好きな歌（童謡・流行歌）			
	10	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 高齢者の好きな歌（童謡・流行歌）			
	11	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 高齢者の好きな歌（童謡・流行歌）			
	12	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 音楽を使った体操			
	13	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 音楽を使った体操			
	14	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 音楽を使った体操			
	15	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 音楽を使った体操			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ○無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			①「楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～」 公益社団法人 日本レクリエーション協会 編 ②他必要に応じて資料等を配布			
評価方法			ボランティア等課外活動への出席、作品等の作成応募を含めた課題提出、授業への出席状況、参加態度、取り組みの状況を評価対象とし、総合的に判断する。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	レクリエーション 活動援助法Ⅱ		学科名	介護福祉学科	講師名	平野 雅子
時間数	60時間				実務経験の有無	看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		利用者それぞれの「心を元気にすること」を目的としたレクリエーションを企画・立案及び実施できる能力を養い、実践することができる。				
授業全体の 内容の概要		コミュニケーションワークやグループワークを取り入れて学習する。レクリエーション種目や活動などの体験をしながら、実践力を学ぶ。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		目的、ねらいに沿ってレクリエーションの楽しさを体験し、支援者としてのレクリエーション技術を 実践で表現できる。 レクリエーションの意義とその必要性について、理解し、実践できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	16	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 手遊びとゲーム			
	17	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 手遊びとゲーム			
	18	講義・演習	レクリエーションの企画と実践・実習に向けて 手遊びとゲーム			
	19	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	20	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	21	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	22	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	23	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	24	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	25	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	26	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	27	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	28	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	29	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
	30	講義・演習	利用者の状態に合わせたレクリエーションの実施			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ ○無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		①「楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～」 公益社団法人 日本レクリエーション協会 編 ②他必要に応じて資料等を配布				
評価方法		ボランティア等課外活動への出席、作品等の作成応募を含めた課題提出、授業への出席状況、参加態度、取り組みの状況を評価対象とし、総合的に判断する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	医療的ケア		学科名	介護福祉学科	講師名	岡村 好美 梶山 香代子
時間数	67時間				実務経験の有無	看護師として病院での看護業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		介護福祉士の業務の中に医療的ケアが含まれている。医療的ケアの理解を踏まえ喀痰吸引、経管栄養について医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・安楽に実施できるように知識・技術を習得する				
授業全体の内容の概要		介護福祉士が医療的ケアを行う基本的知識・技術を習得する為、喀痰吸引では1～2 2回まで講義、2 3～3 0回で演習。経管栄養では3 1～4 1回で講義、4 2～4 5回で演習を行い技術の習得を確認する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるため、医療職との連携のもとでケアを安全・適切に実施できるよう知識・技術を習得する。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	人間の尊厳と医療の倫理について			
	2	講義	喀痰吸引等の制度を学ぶ			
	3	講義	安全な療養生活 1. 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施			
	4	講義	安全な療養生活 2. 救急蘇生・応急手当			
	5	講義	安全な療養生活 3. 救急蘇生法の手順			
	6	講義	清潔保持と感染予防 1. 感染予防			
	7	講義	清潔保持と感染予防 2. 療養環境の清潔と消毒法			
	8	講義	健康状態の把握 1. 身体・精神の健康			
	9	講義	健康状態の把握 2. バイタルサイン・急変状態			
	10	講義	喀痰吸引 1. 呼吸の仕組みと働き			
	11	講義	喀痰吸引 2. 喀痰吸引とは			
	12	講義	喀痰吸引 3. 人工呼吸器と吸引			
	13	講義	喀痰吸引 4. 人工呼吸療法時の喀痰吸引、生活支援、医療職との連携			
	14	演習	喀痰吸引 5. 子供の吸引、吸引をうける利用者・家族の気持ちと対応			
	15	講義	喀痰吸引 6. 呼吸器系の感染と予防			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア（中央法規）				
評価方法		講義終了後（前期・後期）に別日を設けて筆記試験を実施する。筆記試験、出席状況、演習をもとに総合的に評価を行う				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	医療的ケア		学科名	介護福祉学科	講師名	岡村 好美 梶山 香代子	
時間数	67時間				実務経験の有無	看護師として病院での看護業務	
学年・学期配当			1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい			介護福祉士の業務の中に医療的ケアが含まれている。医療的ケアの理解を踏まえ喀痰吸引、経管栄養について医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・安楽に実施できるように知識・技術を習得する				
授業全体の内容の概要			介護福祉士が医療的ケアを行う基本的知識・技術を習得する為、喀痰吸引では1～2 2回まで講義、2 3～3 0回で演習。経管栄養では3 1～4 1 回で講義、4 2～4 5回で演習を行い技術の習得を確認する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）			医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるため、医療職との連携のもとでケアを安全・適切に実施できるよう知識・技術を習得する。				
指導計画	回	形態	内 容				
	16	講義	喀痰吸引 7. 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認				
	17	講義	喀痰吸引 8. 急変・事故発生時の対応と事前対策				
	18	講義	喀痰吸引の実施 手順1. 痰吸引で用いる必要物品としくみ、清潔の保持				
	19	講義	喀痰吸引の実施 手順2. 吸引の技術と留意点				
	20	講義	喀痰吸引の実施 手順3. 吸引実施の手順と留意点（準備・観察・実施）				
	21	講義	喀痰吸引の実施 手順4. 吸引実施の手順と留意点（報告・記録・かたづけ）				
	22	講義	喀痰吸引にともなうケア				
	23	演習	救急蘇生法の実施、シュミレーターを用いて実施				
	24	演習	口腔内の喀痰吸引 声掛けの演習				
	25	演習	口腔内の喀痰吸引				
	26	演習	口腔内の喀痰吸引				
	27	演習	鼻腔内の喀痰吸引				
	28	演習	鼻腔内の喀痰吸引				
	29	演習	気管カニューレ内の喀痰吸引				
	30	演習	気管カニューレ内の喀痰吸引				
	テキスト・参考図書等			最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア（中央法規）			
評価方法			講義終了後（前期・後期）に別日を設けて筆記試験を実施する。筆記試験、出席状況、演習をもとに総合的に評価を行う				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	医療的ケア		学科名	介護福祉学科	講師名	岡村 好美 梶山 香代子	
時間数	67時間				実務経験の有無	看護師として病院での看護業務	
学年・学期配当			1 年次 2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい			介護福祉士の業務の中に医療的ケアが含まれている。医療的ケアの理解を踏まえ喀痰吸引、経管栄養について医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・安楽に実施できるように知識・技術を習得する				
授業全体の内容の概要			介護福祉士が医療的ケアを行う基本的知識・技術を習得する為、喀痰吸引では1～2 2回まで講義、2 3～3 0回で演習。経管栄養では3 1～4 1 回で講義、4 2～4 5回で演習を行い技術の習得を確認する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）			医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるため、医療職との連携のもとでケアを安全・適切に実施できるよう知識・技術を習得する。				
指導計画	回	形態	内 容				
	31	講義	高齢者及び障害児・者の経管栄養 1. 消化器系の仕組みと働き				
	32	講義	高齢者及び障害児・者の経管栄養 2. 経管栄養とは				
	33	講義	高齢者及び障害児・者の経管栄養 3. 注入する内容に関する知識				
	34	講義	高齢者及び障害児・者の経管栄養 4. 経管栄養実施の留意点				
	35	講義	高齢者及び障害児・者の経管栄養 5. 子供の経管栄養、本人家族の気持ち				
	36	講義	高齢者及び障害児・者の経管栄養 6. 経管栄養に関係する感染と予防				
	37	講義	高齢者及び障害児・者の経管栄養 7. 急変・事故発生時の対応と事前対策				
	38	講義	経管栄養手順 1. 器具・器材としくみ、清潔保持				
	39	講義	経管栄養手順 2. 技術と留意点				
	40	講義	経管栄養手順 3. 経管栄養に必要なケア				
	41	講義	経管栄養手順 4. 報告及び記録				
	42	演習	経鼻経管栄養				
	43	演習	経鼻経管栄養				
	44	演習	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養				
	45	演習	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養				
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等			最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア（中央法規）				
評価方法			講義終了後（前期・後期）に別日を設けて筆記試験を実施する。筆記試験、出席状況、演習をもとに総合的に評価を行う				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	介護の基本2		学科名	介護福祉学科	講師名	福場 典子
時間数	60時間				実務経験の有無	障がい者支援施設支援業務 介護福祉士並びに社会福祉士養成施設の専任教員業務
学年・学期配当			1 年次		○2 年次	○前期 後期 通期
目的・ねらい			1 年次に履修した介護の基本1 の学びの振り返りと、生活を支援する介護福祉士と共に生活を支えるフォーマルとインフォーマルの多職種の支援の在り方を学ぶ。			
授業全体の内容の概要			教科書を使用し、利用者の生活を支えているのは、介護福祉士だけではなく、たくさんの人や物や制度などが関わっての生活支援であり一人ひとりの生活が在るということを学ぶ授業展開とする。国家試験勉強も盛り込む。			
授業修了時の達成課題（到達目標）			・リハビリテーションの基本的考え方がわかる。 ・生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを知り説明をすることができる。 ・多職種の役割と機能を知り説明をすることができる。 ※覚えることができる			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義/演習	オリエンテーション・1 年次の振り返り			
	2	講義/演習	1 年次の振り返り 学内試験問題			
	3	講義/演習	1 年次の振り返り 学内試験問題			
	4	講義/演習	1 年次の振り返り 学内試験問題			
	5	講義/演習	利用者理解の視点 用語の確認			
	6	講義/演習	(ICF、自律、自己選択、自己決定、エンパワメント、ストレングス、アプローチ、パートナーシップなど)			
	7	講義/演習	利用者理解の視点 用語の確認			
	8	講義/演習	(ICF、自律、自己選択、自己決定、エンパワメント、ストレングス、アプローチ、パートナーシップなど)			
	9	講義/演習	教科書3 第3節 自立支援とリハビリテーション ①			
	10	講義/演習	教科書3 第3節 自立支援とリハビリテーション ②			
	11	講義/演習	教科書3 第3節 自立支援とリハビリテーション ③			
	12	講義/演習	教科書3 第3節 自立支援とリハビリテーション ④			
	13	講義/演習	教科書3 第3節 自立支援とリハビリテーション ⑤			
	14	講義/演習	教科書4 第2章第1 節 地域共生社会 地域包括ケアシステム			
	15	講義/演習	教科書4 第2章第2 節 生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）			
テキスト・参考図書等			介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規） 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ（中央法規） 介護福祉士国家試験過去問題（中央法規）並びに介護福祉士国家試験模擬問題集（中央法規）など使用			
評価方法			学生便覧による ・評定基準：筆記試験70% 出席20% 提出物など10%で評価する。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	介護の基本2		学科名	介護福祉学科	講師名	福場 典子
時間数	60時間				実務経験の有無	障がい者支援施設支援業務 介護福祉士並びに社会福祉士養成施設の専任教員業務
学年・学期配当			1 年次 ○ 2 年次		○前期 後期 通期	
目的・ねらい			1 年次に履修した介護の基本1 の学びの振り返りと、生活を支援する介護福祉士と共に生活を支えるフォーマルとインフォーマルの多職種の支援の在り方を学ぶ。			
授業全体の内容の概要			教科書を使用し、利用者の生活を支えているのは、介護福祉士だけではなく、たくさんの人や物や制度などが関わっての生活支援であり一人ひとりの生活が在るということを学ぶ授業展開とする。 国家試験勉強も盛り込む。			
授業修了時の達成課題（到達目標）			・リハビリテーションの基本的考え方がわかる。 ・生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを知り説明をすることができる。 ・多職種の役割と機能を知り説明をすることができる。 ※覚えることができる			
指導計画	回	形態	内 容			
	16	講義/演習	教科書4	第2章第2節	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）	
	17	講義/演習	教科書4	第2章第3節	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）	
	18	講義/演習	教科書4	第2章第3節	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）	
	19	講義/演習	利用者の生活を支えるしくみのまとめ			
	20	講義/演習	利用者の生活を支えるしくみのまとめ			
	21	講義/演習	教科書4	第4章	協働する多職種の機能と役割	第1節
	22	講義/演習	教科書4	第4章	協働する多職種の機能と役割	第1節
	23	講義/演習	教科書4	第4章	協働する多職種の機能と役割	第2節
	24	講義/演習	教科書4	第4章	協働する多職種の機能と役割	第2節
	25	講義/演習	教科書4	第4章	協働する多職種の機能と役割	第3節
	26	講義/演習	教科書4	第4章	協働する多職種の機能と役割	第3節
	27	講義/演習	教科書4	第4章	協働する多職種の機能と役割	第4節
	28	講義/演習	教科書4	第4章	協働する多職種の機能と役割	第4節
	29	講義/演習	まとめ			
	30	講義/演習	まとめ			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 ○有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規） 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ（中央法規） 介護福祉士国家試験過去問題（中央法規）並びに介護福祉士国家試験模擬問題集（中央法規）など使用			
評価方法			学生便覧による ・評定基準：筆記試験70% 出席20% 提出物など10%で評価する。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	介護の基本3			介護福祉学科	講師名	林 浩文
時間数	60時間				実務経験の有無	社会福祉施設・事業所で支援業務 介護福祉士並びに社会福祉士養成 施設の専任教員業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を習得する。 介護の基本1・介護の基本2の総復習をおこない学びの定着を図るとともに国家試験対策も講ずる				
授業全体の 内容の概要		必要な情報については適宜補足資料を用意しながら、目的、ねらいに沿ってアクティブラーニング講義を行う。 介護及び介護福祉についての基礎理論や関連分野の知識をリフレクションしながら講義を行う。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		1、介護を必要とする人の人間の多様性・複雑性・生活・生活ニーズ、生活障害について理解し説明ができる。 2、介護サービスの意味と特性について理解し説明できる。 3、介護サービスの種類と提供の場、他職種連携について理解し説明できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	科目オリエンテーション、評価方法等説明			
	2	講義	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ～利用者の生活を支えるしくみ～			
	3	講義	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ～生活を支えるフォーマルサービスとは～			
	4	講義	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ～生活を支えるインフォーマルサービスとは～			
	5	講義・演習	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ～地域のフォーマルサービスとインフォーマルサービス～			
	6	講義	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ～地域連携～			
	7	講義・演習	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ～地域の社会資源調査～①			
	8	講義	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ～地域の社会資源調査～②			
	9	講義	介護における安全確保とリスクマネジメント～介護における安全の確保～			
	10	講義	介護における安全確保とリスクマネジメント～リスクマネジメントとは何か～			
	11	講義・演習	介護における安全確保とリスクマネジメント～身体拘束・虐待～①			
	12	講義	介護における安全確保とリスクマネジメント～身体拘束・虐待～②			
	13	講義	介護における安全確保とリスクマネジメント～認知症の方への対応～①			
	14	講義	介護における安全確保とリスクマネジメント～認知症の方への対応～②			
	15	講義	介護における安全確保とリスクマネジメント～感染症対策～			
	テキスト・参考図書等		①「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ」（第2版） 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 ②「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」（第2版） 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規			
評価方法		出席状況、参加態度（10％）、レポート課題等（10％）、試験（80％）を総合的に評価する。				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	介護の基本3		学科名	介護福祉学科	講師名	林 浩文
時間数	60時間				実務経験の有無	社会福祉施設・事業所で支援業務 介護福祉士並びに社会福祉士養成 施設の専任教員業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を習得する。 介護の基本1・介護の基本2の総復習をおこない学びの定着を図るとともに国家試験対策も講ずる。				
授業全体の 内容の概要		必要な情報については適宜補足資料を用意しながら、目的、ねらいに沿ってアクティブラーニング講義を行う。 介護及び介護福祉についての基礎理論や関連分野の知識をリフレクションしながら講義を行う。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		1、介護を必要とする人の人間の多様性・複雑性・生活・生活ニーズ、生活障害について理解し説明ができる。 2、介護サービスの意味と特性について理解し説明できる。 3、介護サービスの種類と提供の場、他職種連携について理解し説明できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	16	講義	協働する多職種の機能と役割～多職種連携・協働の必要性～①			
	17	講義	協働する多職種の機能と役割～多職種連携・協働の必要性～②			
	18	講義	協働する多職種の機能と役割～多職種連携・協働に求められる基本的能力～①			
	19	講義	協働する多職種の機能と役割～多職種連携・協働に求められる基本的能力～②			
	20	講義	協働する多職種の機能と役割～多職種連携・協働に求められる基本的能力～③			
	21	講義	協働する多職種の機能と役割～保健・医療・福祉職の役割と機能～①			
	22	講義	協働する多職種の機能と役割～保健・医療・福祉職の役割と機能～②			
	23	講義	協働する多職種の機能と役割～保健・医療・福祉職の役割と機能～③			
	24	講義	協働する多職種の機能と役割～多職種連携・協働の実際～			
	25	講義	介護従事者の安全～健康管理の意義と目的～			
	26	講義	介護従事者の安全～心の健康管理～			
	27	講義	介護従事者の安全～身体の健康管理～			
	28	講義	介護従事者の安全～労働環境の整備～①			
	29	講義	介護従事者の安全～労働環境の整備～②			
	30	講義	介護の基本3 総まとめ			
			原則、筆記試験の実施 ☒ 有 ・ ☐ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		①「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ」(第2版) 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 ②「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」(第2版) 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規				
評価方法		出席状況、参加態度(10%)、レポート課題等(10%)、試験(80%)を総合的に評価する。				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	介護過程 3		学科名	介護福祉学科	講師名	林 浩文
時間数	60時間				実務経験の有無	社会福祉施設・事業所で支援業務 介護福祉士並びに社会福祉士養成施設 の専任教員業務
学年・学期配当		1 年次		2 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい		1. 介護過程 1 及び 2 を通して、それぞれの利用者を深く理解し、個別ケアを実践することができる。 2. 利用者個別のニーズと科学的根拠に基づいた生活支援が展開できる。 3. 介護過程の実践を客観的に評価し、その人らしい生活を送るための支援・介護を考えることができる。				
授業全体の 内容の概要		テキスト、適宜補足資料を中心に、目的・ねらいに沿って講義を行う。演習や視聴覚教材を用いながら、学生が参加する時間を設ける。支援・介護及び介護福祉についての基礎理論を関連分野の知識を応用しながら講義を行う。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		1. 対象者の生活ニーズを構造的に捉え、その人らしく自立した生活を送るための支援や介護を考え、実践することができる。 2. 対象者の生活ニーズを構造的に捉え、住み慣れた地域での生活継続のための支援や介護を考え、実践することができる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	科目ガイダンス			
	2	講義	介護過程の実践的展開 ～介護過程の実践的展開～①			
	3	講義	介護過程の実践的展開 ～介護過程の実践的展開～②			
	4	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～①			
	5	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～②			
	6	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～③			
	7	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～④			
	8	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～⑤			
	9	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～⑥			
	10	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～⑦			
	11	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～⑧			
	12	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～⑨			
	13	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～⑩			
	14	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～⑪			
	15	講義・演習	介護過程の実践的展開 ～「介護過程」展開の実際～⑫			
	半期ごとに 評価する場合	原則、筆記試験の実施 ☒ 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		①「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」（第2版） 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規				
評価方法		出席状況、参加態度（10％）、レポート課題等（10％）、試験（80％）を総合的に評価する。				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	介護過程 3		学科名	介護福祉学科	講師名	林 浩文
時間数	60時間				実務経験の有無	社会福祉施設・事業所で支援業務 介護福祉士並びに社会福祉士養成施設 の専任教員業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		1. 介護過程 1 及び 2 を通して、それぞれの利用者を深く理解し、個別ケアを実践することができる。 2. 利用者個別のニーズと科学的根拠に基づいた生活支援が展開できる。 3. 介護過程の実践を客観的に評価し、その人らしい生活を送るための支援・介護を考えることができる。				
授業全体の 内容の概要		テキスト、適宜補足資料を中心に、目的・ねらいに沿って講義を行う。演習や視聴覚教材を用いながら、学生が参加する時間を設ける。支援・介護及び介護福祉についての基礎理論を関連分野の知識を応用しながら講義を行う。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		1. 対象者の生活ニーズを構造的に捉え、その人らしく自立した生活を送るための支援や介護を考え、実践することができる。 2. 対象者の生活ニーズを構造的に捉え、住み慣れた地域での生活継続のための支援や介護を考え、実践することができる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	16	講義	介護過程とケアマネジメント ～介護過程とケアマネジメントの関係性～①			
	17	講義	介護過程とケアマネジメント ～介護過程とケアマネジメントの関係性～②			
	18	講義	介護過程とケアマネジメント ～介護過程とケアマネジメントの関係性～③			
	19	講義	利用者の生活と介護過程の展開 ～利用者の様々な生活と介護過程の展開～①			
	20	講義・演習	利用者の生活と介護過程の展開 ～利用者の様々な生活と介護過程の展開～②			
	21	講義・演習	利用者の生活と介護過程の展開 ～利用者の様々な生活と介護過程の展開～③			
	22	講義・演習	利用者の生活と介護過程の展開 ～利用者の様々な生活と介護過程の展開～④			
	23	講義・演習	利用者の生活と介護過程の展開 ～利用者の様々な生活と介護過程の展開～⑤			
	24	講義・演習	利用者の生活と介護過程の展開 ～事例で考える利用者の生活と介護過程の展開～①			
	25	講義・演習	利用者の生活と介護過程の展開 ～事例で考える利用者の生活と介護過程の展開～②			
	26	講義・演習	利用者の生活と介護過程の展開 ～事例で考える利用者の生活と介護過程の展開～③			
	27	講義・演習	利用者の生活と介護過程の展開 ～事例で考える利用者の生活と介護過程の展開～④			
	28	講義・演習	利用者の生活と介護過程の展開 ～事例で考える利用者の生活と介護過程の展開～⑤			
	29	講義・演習	利用者の生活と介護過程の展開 ～事例で考える利用者の生活と介護過程の展開～⑥			
	30	講義	介護過程 3 総まとめ			
			原則、筆記試験の実施 ☒ 筆記試験 ☐ 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		①「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」（第2版） 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規				
評価方法		出席状況、参加態度（10％）、レポート課題等（10％）、試験（80％）を総合的に評価する。				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	介護実習Ⅱ		学科名	介護福祉学科	講師名	実習施設の指導者
時間数	224時間				実務経験の有無	指導者要件 ・介護福祉士としての実務経験 ・介護実習指導者講習会修了
学年・学期配当			1 年次	2 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい			1つの施設又は事業所において、一定期間以上継続して実習をおこなう。 利用者ごとの介護計画の立案・実施・評価、これを踏まえた計画の修正といった一連の介護課程のすべてを継続的に実施することに重点を置く。また、他の科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。			
授業全体の内容の概要			介護福祉士国家資格取得者となるべく現場での学習をする。実習事前指導、実習中指導（帰校日並びに指導教員による巡回指導）、実習事後指導、すべてを介護実習と位置づけ、介護総合演習と連動する。 介護実習先は、介護教員により熟慮し決定する。			
授業修了時の達成課題（到達目標）			1. 実習指導者との相談のもと受け持つ利用者を決定し、介護過程で学んだ思考のプロセスを実践する。 2. 利用者の生活における課題を明確にする為に必要な情報収集が行える。 3. 自立支援の視点から利用者の生活課題を明確にすることができる。 4. アセスメントによって明確になった課題に対して、ケースや介護職員（または他職種）と相談をしながら介護計画が立案できる。 5. 介護計画に基づいた介護実践ができる。 6. 自ら実践した介護計画・具体策の評価や修正ができる。 7. 集団または個別のレクリエーションを実践できる。			
指導計画	回	形態	内 容			
		実習	配属した実習先に、28日間 1日8時間 224時間の実習をおこなう。			
			実習期間中にレクリエーションの実践を1度はおこなう。			
			実習期間中に、日勤帯以外の勤務帯（夜勤や早出遅出、準夜勤）を1回は体験する。			
			実習期間中に帰校日を設け、学内で介護過程の進捗状況の確認、実習記録内容の確認をおこない指導助言をおこなう。			
			併せて、介護教員は、実習先に出向き、実習指導を実施する。			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			介護総合演習と連動するため 「新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 介護実習実施要綱 介護実習の手引き			
評価方法			実習先からの評価を元に、学内の様子、巡回指導時の様子を加味し、総合的に評価をおこなう。			

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名		介護総合演習3		学科名	介護福祉学科	講師名	介護教員全員
時間数		30時間				実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設等での実務経験 看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり社会福祉施設等で生活支援業務
学年・学期配当		1 年次		2 年次		前期	後期 通期
目的・ねらい		1. 実習の意義と重要性について理解できる。 2. 実習を通じて学内で学んだ知識を具体的に理解できる。 3. 介護福祉士としての自覚・専門職として求められる資質や対象者の理解を通し、自己に求められる課題を把握することができ、実践することができる。					
授業全体の内容の概要		実習施設や実習に必要な態度と心得について学ぶ。各実習の段階に合わせて実習に向けての準備及び振り返りができる。					
授業修了時の達成課題（到達目標）		1. 介護実習の意義と目的、実習に必要な態度と心構え、留意事項について理解できる。 2. 実習での体験を振り返り、自己の課題に気づくことができる。 3. 各領域で学んだ知識・技術を結びつけ考えることや、実践することができる。 4. さまざまな対象者と関わり、対象者の生活を知ることができる。 5. わかりやすい記録を書くことができる。					
指導計画	回	形態	内 容				
	1	講義・演習	実習の目的・内容について				
	2	講義・演習	実習の目的・内容について				
	3	講義・演習	個人票・施設概要の作成				
	4	講義・演習	個人票・施設概要・個人計画書の作成				
	5	講義・演習	個人計画書の作成				
	6	講義・演習	個人計画書の作成				
	7	講義・演習	個人計画書の作成				
	8	講義・演習	個人計画書の作成				
	9	講義・演習	個人計画書の作成				
	10	講義・演習	事前訪問の意義・目的、アポイント、訪問の計画・マナー				
	11	講義・演習	事前訪問報告書作成				
	12	講義・演習	実習の心得、実習事前学習①				
	13	講義・演習	実習の心得、実習事前学習③				
	14	講義・演習	実習の心得、実習事前学習④				
	15	講義・演習	実習の心得、実習事前学習①				
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。					
テキスト・参考図書等		「新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 介護実習実施要綱・手引き					
評価方法		出席状況、各種計画書・報告書、報告会への参加等を総合的に評価する。					

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	介護総合演習4			学科名	介護福祉学科	講師名	介護教員全員	
時間数	30時間					実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設等での実務経験 看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり 社会福祉施設等で生活支援業務	
学年・学期配当		1 年次			2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		1. 実習の意義と重要性について理解できる。 2. 実習を通じて学内で学んだ知識を具体的に理解できる。 3. 介護福祉士としての自覚・専門職として求められる資質や対象者の理解を通し、自己に求められる課題を把握することができ、実践することができる。						
授業全体の 内容の概要		これまでの実習を通して振り返りを行い、自己の課題に気づくことができる。 介護福祉士の職業理解を深める 介護過程の展開の振り返りを通して、1 つひとつの過程への気づき理解を深める。						
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		1. 実習での体験を振り返り、自己の課題に気づくことができる。 2. 各領域で学んだ知識・技術を結びつけ考え、利用者に必要な介護を考えることができる。 3. 自分自身の目指すべき介護福祉士の姿がイメージできる。 4. わかりやすい記録を書くことができる。 5. 介護過程の展開と振り返りをすることができ、報告をおこなうことができる。						
指導計画	回	形態	内 容					
	1	講義・演習	お礼状作成					
	2	講義・演習	実習事前指導① 介護過程の展開					
	3	講義・演習	実習事前指導② 介護過程の展開					
	4	講義・演習	実習事前指導③ 実習記録簿の確認 その他実習前オリエンテーション					
	5	講義・演習	実習の振り返り④ 帰校日 学内指導					
	6	講義・演習	実習の振り返り⑤ 帰校日 学内指導					
	7	講義・演習	実習の振り返り⑥ 帰校日 学内指導					
	8	講義・演習	実習報告書作成①					
	9	講義・演習	実習報告書作成②					
	10	講義・演習	実習報告書作成③					
	11	講義・演習	実習報告書作成④					
	12	講義・演習	実習報告書作成⑤					
	13	講義・演習	実習報告会（事例報告）					
	14	講義・演習	実習報告会（事例報告）					
	15	講義・演習	実習報告会（事例報告）					
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。						
テキスト・参考図書等		「新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 介護実習実施要綱・手引き						
評価方法		出席状況、各種計画書・報告書、報告会への参加等を総合的に評価する。						

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	社会の理解		学科名	介護福祉学科	講師名	福場 典子
時間数	30時間				実務経験の有無	障がい者支援施設支援業務 介護福祉士並びに社会福祉士養成施設の専任教員業務
学年・学期配当			1 年次 ○ 2 年次		前期 ○ 後期 通期	
目的・ねらい			国家試験対策を意識する。 しかしながら、生活と社会（支援制度など）が結びつき、現実に関生活を送ることができるということを理解することができるが目的である。			
授業全体の 内容の概要			教科書に記載しているテーマについて授業をおこなう。国家試験を意識した授業展開。 1 年次の復習、社会保障制度全般、地域共生社会に関する制度施策、介護実践に関連する諸制度の授業をおこなう。			
授業修了時の 達成課題 （到達目標）			・ 国家試験の対策として、意欲的に学習に取り組むことができる。 ・ 我々の生活を支える日本の法制度や施策を知ることができる。 ・ 特に、出題率の高い、介護保険制度、障害者総合支援法、ほか社会保障全般を理解することができる。			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	1 年次の振返り			
	2	講義	1 年次の振返り オリエンテーション			
	3	講義	第 2 章 地域共生社会について 1 年次復習含む			
	4	講義	第 2 章 地域共生社会について 1 年次復習含む			
	5	講義	第 3 章 社会保障制度の基本的考え方			
	6	講義	第 3 章 社会保障制度の基本的考え方			
	7	講義	第 3 章 社会保障制度のしくみ			
	8	講義	第 3 章 社会保障制度のしくみ			
	9	講義	第 3 章 社会保障制度のしくみ			
	10	講義	第 6 章 介護実践に関連する諸制度			
	11	講義	第 6 章 介護実践に関連する諸制度			
	12	講義	第 6 章 介護実践に関連する諸制度			
	13	講義	総まとめ 問題を解く、解説する			
	14	講義	総まとめ 問題を解く、解説する			
	15	講義	総まとめ 問題を解く、解説する			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 ○有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			中央法規 最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解【第 2 版】 資料配布（国家試験過去問題や模擬問題、作成練習問題など）			
評価方法			全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より 筆記試験80%、出席状況10%、提出物10%で評価する。筆記試験の評価が悪い学生は再試験を実施する。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	障害の理解		学科名	介護福祉学科	講師名	林 浩文
時間数	30時間				実務経験の有無	社会福祉施設・事業所で支援業務 介護福祉士並びに社会福祉士養成 施設の専任教員業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		1 年次の学びである法的理解と理念の理解を踏まえ、障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。本人のみならず家族を含めた周囲に配慮した介護の視点の習得を目指す。				
授業全体の 内容の概要		介護福祉士が障害のある人と向き合うための基本的な知識を身につける。それぞれの障害種別ごとの身体的・心理的側面を踏まえた生活とそれに応じた支援を理解する。暗記科目になるので振り返り時間を設ける。 国家試験対策を講じる。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		それぞれの障がいの生活のイメージが持てる。障がいのある人（子ども）とその家族の支援に必要な基礎的な医学的側面と心的側面の理解、及び本人と家族支援につながる介護の視点（環境配慮）の習得を目指す。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	オリエンテーション	障害のある人の生活の理解	(視覚障害のある人の生活)	
	2	講義			(聴覚・言語障害のある人の生活)	
	3	講義・演習			(重複障害のある人の生活)	
	4	講義・演習	肢体不自由（運動機能障害）	(肢体不自由とは・・・・・・)		
	5	講義・演習	知的障害のある人の生活	(生活の理解・・・・・・)		
	6	講義・演習		振り返り		
	7	講義・演習	精神障害のある人の生活	(精神障害・精神障害の定義・・・・)		
	8	講義	高次脳機能障害のある人の生活	(医学的理解・・・・・・)		
	9	講義・演習		振り返り		
	10	講義・演習	発達障害児のある人の生活	(発達障害 とは・・・・)		
	11	講義・演習	発達障害のある人の生活の理解	(内部障害のある人の生活 医学的理解・・・)		
	12	講義・演習		(呼吸機能障害のある人の生活 ・・・)		
	13	講義・演習		(免疫不全ウイルス ・・・・・・)		
	14	講義・演習	難病のある人の生活	(難病とは・・・・・・)		
	15	講義		まとめ・振り返り		
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 ☐ 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		介護福祉士養成講座 14 障害の理解 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規				
評価方法		学生便覧による 筆記試験8割 出席・受講態度2割の総合評価				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	情報処理 (日本人対象)		学科名	介護福祉学科	講師名	山本 圭佑
時間数	60時間				実務経験の有無	ITインストラクター 業務経験あり
学年・学期配当		1年次	2年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		Word、Excel、PowerPointの基礎を学び社会における基礎PCスキルの習得を目指す。 SNS、インターネットの危険性を学習し、情報モラルを身に付ける。				
授業全体の 内容の概要		Windows10/11の基礎、Word、Excel、PowerPointの基礎、 SNS、インターネット使用における危険性の学習、情報モラルの学習				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		Windows10/11の基礎、Word、Excel、PowerPointの基礎、 SNS、インターネット使用における危険性の学習、情報モラルの学習				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	オリエンテーション、セキュリティと情報モラル、OS基本操作			
	2	演習	Word 基本的文書作成			
	3	演習	Word 文書のデザイン			
	4	演習	Word 文書のデザイン			
	5	演習	Word 文書のレイアウト 画像の挿入			
	6	演習	Word 文書のレイアウト 画像の挿入			
	7	演習	Word 表の挿入 文書の構成			
	8	演習	Excel 基本的表作成・デザイン			
	9	演習	Excel 基本的表作成・デザイン			
	10	演習	Excel 基本的表作成・デザイン			
	11	演習	Excel 計算式・関数・グラフ			
	12	演習	Excel 計算式・関数・グラフ			
	13	演習	Excel 計算式・関数・グラフ			
	14	演習	Word・Excel 総合演習			
	15	テスト	前期試験・総復習			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint入門（技術評論社） 例題35＋演習問題65でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2016対応版（技術評論社）				
評価方法		全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する（試験監督はWAD職員）。ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より 実技試験（PC）70％ 出席 10％ 授業態度 20％ で評価				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	情報処理 (日本人対象)		学科名	介護福祉学科	講師名	山本 圭佑
時間数	60時間				実務経験の有無	ITインストラクター 業務経験あり
学年・学期配当		1年次	2年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		Word、Excel、PowerPointの基礎を学び社会における基礎PCスキルの習得を目指す。 SNS、インターネットの危険性を学習し、情報モラルを身に付ける。				
授業全体の 内容の概要		Windows10/11の基礎、Word、Excel、PowerPointの基礎、 SNS、インターネット使用における危険性の学習、情報モラルの学習				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		Windows10/11の基礎、Word、Excel、PowerPointの基礎、 SNS、インターネット使用における危険性の学習、情報モラルの学習				
指導計画	回	形態	内 容			
	16	講義	Word・Excel 前期復習			
	17	演習	PowerPoint スライド作成・編集			
	18	演習	PowerPoint スライド作成・編集			
	19	演習	PowerPoint スライドのビジュアル設定			
	20	演習	PowerPoint スライドのビジュアル設定			
	21	演習	PowerPoint プレゼンテーション			
	22	演習	PowerPoint プレゼンテーション			
	23	演習	メールの基本操作			
	24	演習	メールの作成マナー			
	25	演習	インターネットの活用			
	26	演習	インターネットの活用			
	27	演習	Word・Excel・PowerPoint 総合演習			
	28	演習	Word・Excel・PowerPoint 総合演習			
	29	演習	Word・Excel・PowerPoint 総合演習			
	30	テスト	後期試験・総復習			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint入門（技術評論社） 例題35＋演習問題65でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2016対応版（技術評論社）				
評価方法		全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より 実技試験（PC）70％ 出席 10％ 授業態度 20％ で評価				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	情報処理 (留学生対象)		学科名	介護福祉学科	講師名	山本 圭佑
時間数	60時間				実務経験の有無	ITインストラクター 業務経験あり
学年・学期配当		1年次	2年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		Word、Excel、PowerPointの基礎を学び社会における基礎PCスキルの習得を目指す。 SNS、インターネットの危険性を学習し、情報モラルを身に付ける。				
授業全体の 内容の概要		Windows10/11の基礎、Word、Excel、PowerPointの基礎、 SNS、インターネット使用における危険性の学習、情報モラルの学習				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		Windows10/11の基礎、Word、Excel、PowerPointの基礎、 SNS、インターネット使用における危険性の学習、情報モラルの学習				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	オリエンテーション、セキュリティと情報モラル、OS基本操作			
	2	演習	Word 基本的文書作成			
	3	演習	Word 文書のデザイン			
	4	演習	Word 文書のデザイン			
	5	演習	Word 文書のレイアウト 画像の挿入			
	6	演習	Word 文書のレイアウト 画像の挿入			
	7	演習	Word 表の挿入 文書の構成			
	8	演習	Excel 基本的表作成・デザイン			
	9	演習	Excel 基本的表作成・デザイン			
	10	演習	Excel 基本的表作成・デザイン			
	11	演習	Excel 計算式・関数・グラフ			
	12	演習	Excel 計算式・関数・グラフ			
	13	演習	Excel 計算式・関数・グラフ			
	14	演習	Word・Excel 総合演習			
	15	テスト	前期試験・総復習			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint入門（技術評論社） 例題35＋演習問題65でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2016対応版（技術評論社）				
評価方法		全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より 実技試験（PC）70％ 出席 10％ 授業態度 20％ で評価				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	情報処理 (留学生対象)		学科名	介護福祉学科	講師名	山本 圭佑
時間数	60時間				実務経験の有無	ITインストラクター 業務経験あり
学年・学期配当		1年次	2年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		Word、Excel、PowerPointの基礎を学び社会における基礎PCスキルの習得を目指す。 SNS、インターネットの危険性を学習し、情報モラルを身に付ける。				
授業全体の 内容の概要		Windows10/11の基礎、Word、Excel、PowerPointの基礎、 SNS、インターネット使用における危険性の学習、情報モラルの学習				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		Windows10/11の基礎、Word、Excel、PowerPointの基礎、 SNS、インターネット使用における危険性の学習、情報モラルの学習				
指導計画	回	形態	内 容			
	16	講義	Word・Excel 前期復習			
	17	演習	PowerPoint スライド作成・編集			
	18	演習	PowerPoint スライド作成・編集			
	19	演習	PowerPoint スライドのビジュアル設定			
	20	演習	PowerPoint スライドのビジュアル設定			
	21	演習	PowerPoint プレゼンテーション			
	22	演習	PowerPoint プレゼンテーション			
	23	演習	メールの基本操作			
	24	演習	メールの作成マナー			
	25	演習	インターネットの活用			
	26	演習	インターネットの活用			
	27	演習	Word・Excel・PowerPoint 総合演習			
	28	演習	Word・Excel・PowerPoint 総合演習			
	29	演習	Word・Excel・PowerPoint 総合演習			
	30	テスト	後期試験・総復習			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及 び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint入門（技術評論社） 例題35＋演習問題65でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2016対 応版（技術評論社）				
評価方法		全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。ただし科目によっては、レポートや実技 試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より 実技試験（PC）70％ 出席 10％ 授業態度 20％ で評価				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	人間の理解		学科名	介護福祉学科	講師名	福場 典子
時間数	30時間				実務経験の有無	障がい者支援施設支援業務 介護福祉士並びに社会福祉士養成施設の専任教員業務
学年・学期配当			1 年次 ○ 2 年次		○ 前期 後期 通期	
目的・ねらい			人間の尊厳の保持や自立の考え方を学び、対人援助関係形成の基礎となる人間関係・コミュニケーション・介護実践に必要なチームマネジメントの考え方と取り組みを理解する。			
授業全体の 内容の概要			教科書に記載しているテーマについて授業をおこなう。国家試験を意識した授業展開。 1 年次は、前期に第 1 章、後期に第 2 章 2 年次に、半期で第 3 章 の授業をおこなう。			
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			・人間の尊厳と尊厳の保持、自立の考え方を知ることができ、自分の中に在るものに気づくことができる。 ・人間関係とコミュニケーションとの関係性を理解することができる（自己理解と他者理解）。 ・1 年次の学びを基本に、チームケア実践のため及びチームリーダーになるために必要なチームマネジメントについて知ることができる。			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	1 年次の振返り			
	2	講義/演習	チームとは グループとチームの違い			
	3	講義	第 3 章 介護実践におけるチームマネジメント 意義①			
	4	講義	第 3 章 介護実践におけるチームマネジメント 意義②			
	5	講義/演習	第 3 章 介護実践におけるチームマネジメント 意義 演習課題			
	6	講義	第 3 章 介護実践におけるチームマネジメント ケアを展開するためのチームマネジメント①			
	7	講義	第 3 章 介護実践におけるチームマネジメント ケアを展開するためのチームマネジメント②			
	8	講義/演習	第 3 章 介護実践におけるチームマネジメント ケアを展開するためのチームマネジメント 演習課題			
	9	講義	国家試験対策 1 年次の学びも含めて 問題を解く、解説をする			
	10	講義	国家試験対策 1 年次の学びも含めて 問題を解く、解説をする			
	11	講義	第 3 章 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①			
	12	講義	第 3 章 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②			
	13	講義/演習	第 3 章 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 演習課題			
	14	講義	第 3 章 組織の目標達成のためのチームマネジメント①			
	15	講義	第 3 章 組織の目標達成のためのチームマネジメント② まとめ			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 ○有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			中央法規 最新介護福祉士養成講座 1 人間の理解【第 2 版】 参考図書 中央法規 現場で役立つ 介護・福祉リーダーのためのチームマネジメント 資料配布（国家試験過去問題や模擬問題など）			
評価方法			全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より筆記試験80%、出席状況10%、提出物10%で評価する。筆記試験の評価が悪い学生は再試験を実施する。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生活支援技術 (家政学実習)		学科名	介護福祉学科	講師名	岡田 理恵
時間数	60時間				実務経験の有無	管理栄養士として 主に病院で業務
学年・学期配当	1 年次		○2 年次		○前期	後期 通期
目的・ねらい	生活支援の中での「食」をテーマに授業を展開する。 高齢者施設での食介助、居宅などにおける食作り及び食介助に活かすために、知識・食を作る楽しみ ・食を提供する工夫などを実技を通して感じる。 衛生管理と感染（手洗い・食中毒など）の知識も身につける。					
授業全体の 内容の概要	講義と授業を交互に行う。 高齢者の身体の状態に合わせた、食の提供ができるようにテーマ別に展開をする。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)	・高齢者の身体の状態に合わせた「食」を知り、調理をすることができる。 ・「食」を考え、「食」の楽しみを考え提供することができる。					
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	オリエンテーション 食べることの大切さ 食事の役割			
	2	講義	オリエンテーション 食品成分表の見方、食事の形態について			
	3	実習	家政学実習室のオリエンテーション 実習室の使い方			
	4	実習	フルーツカット、ロールサンド			
	5	実習	一汁三菜 基本の献立の組み合わせを知る			
	6	実習	一汁三菜 切り方、計り方を知る			
	7	講義	塩分制限について 高血圧			
	8	講義	塩分制限について 高血圧			
	9	実習	塩分制限食を作る			
	10	実習	塩分制限食を作る			
	11	講義	エネルギーコントロール食について 糖尿病など			
	12	講義	エネルギーコントロール食について 糖尿病など			
	13	実習	エネルギーコントロール食を作る			
	14	実習	エネルギーコントロール食を作る			
	15	講義	低栄養について			
テキスト・参考図書等			テキストはなし プリントを毎時配布			
評価方法			学生便覧による ・評価基準：実技テストとレポート70% 出席20% 授業態度20% ・調理実習時は毎時レポートを提出			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生活支援技術 (家政学実習)		学科名	介護福祉学科	講師名	岡田 理恵
時間数	60時間				実務経験の有無	管理栄養士として 主に病院で業務
学年・学期配当	1 年次		○ 2 年次		○ 前期	後期 通期
目的・ねらい	生活支援の中での「食」をテーマに授業を展開する。 高齢者施設での食介助、居宅などにおける食作り及び食介助に活かすために、知識・食を作る楽しみ ・食を提供する工夫などを実技を通して感じる。 衛生管理と感染（手洗い・食中毒など）の知識も身につける。					
授業全体の 内容の概要	講義と授業を交互に行う。 高齢者の身体の状態に合わせた、食の提供ができるようにテーマ別に展開をする。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)	・ 高齢者の身体の状態に合わせた「食」を知り、調理をすることができる。 ・ 「食」を考え、「食」の楽しみを考え提供することができる。					
指導計画	回	形態	内 容			
	16	講義	低栄養について			
	17	実習	栄養たっぷりメニュー			
	18	実習	栄養たっぷりメニュー			
	19	講義	嚥下困難食について			
	20	講義	嚥下困難食について			
	21	実習	嚥下困難食を作る いろいろな食形態を知る			
	22	実習	嚥下困難食を作る いろいろな食形態を知る			
	23	実習	献立を考える 考えた献立を作る			
	24	実習	献立を考える 考えた献立を作る			
	25	講義	便秘について			
	26	実習	食物繊維たっぷりメニュー			
	27	実習	実技テスト たまご焼き 一人おかず1品考え作る			
	28	実習	実技テスト たまご焼き 一人おかず1品考え作る			
	29	講義	レポートのまとめと授業の振り返り			
	30	実習	調理実習室の掃除及び環境整備（物品確認と整理）			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ ○ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			テキストはなし プリントを毎時配布			
評価方法			学生便覧による ・ 評定基準：実技テストとレポート70% 出席20% 授業態度20% ・ 実技テストの実施 ・ 調理実習時は毎時レポートを提出			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅲ（応用）		学科名	介護福祉学科	講師名	安部 景子 平野 雅子
時間数	60時間				実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設等での実務経験 看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		「尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者が主体的に生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術・態度を習得すること」を目的とする。				
授業全体の内容の概要		【生活支援技術Ⅲ】では、①障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解すること、②生活上の困りごとを理解すること、③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解することの3点を教授する。 障害や疾病のある人の様々な暮らし、様々な思いを理解し、尊厳の保持や自立支援をふまえた介護実践につなげていく。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		① ICFの視点を用いてアセスメントを行い、生活環境を含め人物像を把握することができる。 ② 基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立の視点や安全・安心の視点から根拠に基づいた介護が実践できる。 ③ 利用者の自立した生活を支援するため、利用者の心身の状況に合わせた介護技術ができる。および、福祉用具を選択・活用することができる。 ④ 適切な介護技術や福祉用具を用いて、障害がある人を安全に支援することができる。 ⑤ チームケア・チームアプローチにおける介護福祉士の役割が理解できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	オリエンテーション	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは		
	2	講義・演習	障害に応じた生活支援技術	肢体不自由に応じた介護①		
	3	講義・演習	障害に応じた生活支援技術	肢体不自由に応じた介護②		
	4	講義・演習	障害に応じた生活支援技術	視覚障害に応じた介護①		
	5	講義・演習	障害に応じた生活支援技術	視覚障害に応じた介護②		
	6	演習	障害に応じた生活支援技術	視覚障害に応じた介護③		
	7	演習	障害に応じた生活支援技術	視覚障害に応じた介護④		
	8	演習	障害に応じた生活支援技術	視覚障害に応じた介護⑤		
	9	講義・演習	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護①		
	10	講義・演習	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護②		
	11	演習	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護③		
	12	演習	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護④		
	13	演習	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護⑤		
	14	演習	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護⑥		
	15	演習	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護⑦		
	テキスト・参考図書等		新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ			
評価方法		全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。 実技試験：100点（試験に合格すれば、次の実技試験を受けることができる） 筆記試験：80点（100点満点の筆記試験を実施。得点を80％に換算）、態度点：10点、出席点：10点				

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅲ（応用）		学科名	介護福祉学科	講師名	安部 景子 平野 雅子
時間数	60時間				実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設等での実務経験 看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		「尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者が主体的に生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術・態度を習得すること」を目的とする。				
授業全体の内容の概要		【生活支援技術Ⅲ】では、①障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解すること、②生活上の困りごとを理解すること、③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解することの3点を教授する。 障害や疾病のある人の様々な暮らし、様々な思いを理解し、尊厳の保持や自立支援をふまえた介護実践につなげていく。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		① ICFの視点をを用いてアセスメントを行い、生活環境を含め人物像を把握することができる。 ② 基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立の視点や安全・安心の視点から根拠に基づいた介護が実践できる。 ③ 利用者の自立した生活を支援するため、利用者の心身の状況に合わせた介護技術ができる。および、福祉用具を選択・活用することができる。 ④ 適切な介護技術や福祉用具を用いて、障害がある人を安全に支援することができる。 ⑤ チームケア・チームアプローチにおける介護福祉士の役割が理解できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	16	演習	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護⑧		
	17	演習	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護⑨		
	18	演習	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護⑩		
	19	演習	実習に向けた生活支援技術の復習			
	20	演習	実習に向けた生活支援技術の復習			
	21	演習	実習に向けた生活支援技術の復習			
	22	演習	実習に向けた生活支援技術の復習			
	23	演習	実習に向けた生活支援技術の復習			
	24	演習	実習に向けた生活支援技術の復習			
	25	演習	実習に向けた生活支援技術の復習			
	26	演習	実習に向けた生活支援技術の復習			
	27	演習	実習に向けた生活支援技術の復習			
	28	演習	実技試験			
	29	演習	実技試験			
	30	演習	実技試験			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ				
評価方法		全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。 実技試験：100点（試験に合格すれば、次の実技試験を受けることができる） 筆記試験：80点（100点満点の筆記試験を実施。得点を80％に換算）、態度点：10点、出席点：10点				

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅳ（応用）		学科名	介護福祉学科	講師名	安部 景子 平野 雅子
時間数	60時間				実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設等での実務経験 看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		「尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者が主体的に生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術・態度を習得すること」を目的とする。				
授業全体の内容の概要		【生活支援技術Ⅳ】では、国家試験の過去問題や模擬問題を解き、習得した介護技術の理解がより深まるように、文章題を読んでイメージ化できるように教授する。また、2年間の学びの集大成として、生活支援技術の試験を行う。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		② 基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立の視点や安全・安心の視点から根拠に基づいた介護が実践できる。 ③ 利用者の自立した生活を支援するため、利用者の心身の状況に合わせた介護技術ができる。および、福祉用具を選択・活用することができる。 ④ 適切な介護技術や福祉用具を用いて、高齢者および障害者を安全に支援することができる。 ⑥ 習得した介護技術が、文章を読んでイメージすることができ、正答を選ぶことができる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義・演習	事例を用いた実技練習①			
	2	講義・演習	事例を用いた実技練習①			
	3	講義・演習	事例を用いた実技練習①			
	4	講義・演習	事例を用いた実技練習①			
	5	講義・演習	生活支援技術の国家試験対策①			
	6	講義・演習	生活支援技術の国家試験対策①			
	7	講義・演習	事例を用いた実技練習②			
	8	講義・演習	事例を用いた実技練習②			
	9	講義・演習	事例を用いた実技練習②			
	10	講義・演習	事例を用いた実技練習②			
	11	講義・演習	生活支援技術の国家試験対策②			
	12	講義・演習	生活支援技術の国家試験対策②			
	13	講義・演習	事例を用いた実技練習③			
	14	講義・演習	事例を用いた実技練習③			
	15	講義・演習	事例を用いた実技練習③			
テキスト・参考図書等		新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ すべて、中央法規出版				
評価方法		原則実技試験・筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。 実技試験：100点 筆記試験：80点（100点満点の筆記試験を実施。得点を80%に換算）、態度点：10点、出席点：10点				

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅳ（応用）		学科名	介護福祉学科	講師名	安部 景子 平野 雅子
時間数	60時間				実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設等での実務経験 看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		「尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者が主体的に生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術・態度を習得すること」を目的とする。				
授業全体の内容の概要		【生活支援技術Ⅳ】では、国家試験の過去問題や模擬問題を解き、習得した介護技術の理解がより深まるように、文章題を読んでイメージ化できるように教授する。また、2年間の学びの集大成として、生活支援技術の試験を行う。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		② 基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立の視点や安全・安心の視点から根拠に基づいた介護が実践できる。 ③ 利用者の自立した生活を支援するため、利用者の心身の状況に合わせた介護技術ができる。および、福祉用具を選択・活用することができる。 ④ 適切な介護技術や福祉用具を用いて、高齢者および障害者を安全に支援することができる。 ⑥ 習得した介護技術が、文章を読んでイメージすることができ、正答を選ぶことができる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	16	講義・演習	事例を用いた実技練習③			
	17	講義・演習	生活支援技術の国家試験対策③			
	18	講義・演習	生活支援技術の国家試験対策③			
	19	講義・演習	事例を用いた実技練習④			
	20	講義・演習	事例を用いた実技練習④			
	21	講義・演習	事例を用いた実技練習④			
	22	講義・演習	事例を用いた実技練習④			
	23	講義・演習	生活支援技術の国家試験対策④			
	24	講義・演習	生活支援技術の国家試験対策④			
	25	講義・演習	事例を用いた実技練習⑤			
	26	講義・演習	事例を用いた実技練習⑤			
	27	講義・演習	事例を用いた実技練習⑤			
	28	講義・演習	事例を用いた実技練習⑤			
	29	講義・演習	実技試験			
	30	講義・演習	実技試験			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		新・介護福祉士養成講座Ⅵ 生活支援技術Ⅰ 新・介護福祉士養成講座Ⅶ 生活支援技術Ⅱ 新・介護福祉士養成講座Ⅷ 生活支援技術Ⅲ すべて、中央法規出版				
評価方法		原則実技試験・筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。 実技試験：100点 筆記試験：80点（100点満点の筆記試験を実施。得点を80%に換算）、態度点：10点、出席点：10点				

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	発達と老化		学科名	介護福祉学科	講師名	平野 雅子
時間数	30時間				実務経験の有無	看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり
学年・学期配当			1 年次	○ 2 年次	○ 前期	後期 通期
目的・ねらい			1 年次の学びを前提に、老化に伴う身体的・心理的・社会的変化が生活に及ぼす影響や高齢者の特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎知識を学習する。			
授業全体の内容の概要			老化に伴う機能低下が日常生活に及ぼす影響や高齢者に多い疾病について理解し、生活支援の根拠となるようにする。			
授業修了時の達成課題（到達目標）			老年期、高齢者の特徴や老化に伴うさまざまな変化や及ぼす影響を知る。生活を支援をするための基礎的な知識が理解できる。			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	ふりかえり（ 1 年次 発達から老化 ） 老化に伴う心理的变化と生活への影響 （ 認知機能）			
	2	講義	老化にともなう心理的变化と生活への影響 （ 知的機能の変化 ）			
	3	講義	ふりかえり			
	4	講義	老化にともなう社会的変化と生活への影響 （ 少子高齢化の問題 ）			
	5	講義	老化にともなう心理的变化と生活への影響 （ 高齢者の就労状況 ）			
	6	講義	高齢者と健康 （ 平均寿命 と 健康寿命 ）			
	7	講義	（ 高齢者の症状・疾患の特徴 ）			
	8	講義	生活上の留意点 （ 骨格系 ・筋系 ）			
	9	講義	（ 変形性膝関節症 ）			
	10	講義	ふりかえり			
	11	講義	（ 脳 ・神経系 ）			
	12	講義	（ 循環器系 高血圧症 ）			
	13	講義	（ 消化器系 ）			
	14	講義	（ 悪性新生物 ）			
	15	講義	ふりかえり			
		試験	原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書			中央法規出版介護福祉士養成講座 発達と老化			
評価方法			全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する（試験監督はIWAD職員）。ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。筆記試験評価を80%とし、授業態度・出席率を20%で評価する。			

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)